



かたしな

議会だより

No. 114 平成19年11月15日発行



PHOTO

尾瀬ヶ原の紅葉

主な内容

平成18年度決算の認定.....	2
決算審査意見.....	2
9月定例会で決まったこと.....	4
村政を問う 4名が一般質問.....	5~7
編集後記.....	8

平成18年度決算を認定

9月定例会議において、平成18年度の一般会計及び6特別会計の決算が可決されました。

● 一般会計

歳入決算額36億3,262万9,854円、歳出決算額35億2,872万5,762円

翌年度繰越額1億390万4,092円、年度末村債（借入金）未償還元金現在高32億5,247万2,890円、年度末基金（貯金）現在高11億4,053万8,000円

財政の推移 年度別決算状況表

区 分		平成16年度	平成17年度	平成18年度
歳入	決 算 額	4,015,632,126円	4,104,609,255円	3,632,629,854円
	前年増減率	91.8%	102.2%	88.5%
歳出	決 算 額	3,896,405,956円	4,000,546,754円	3,528,725,762円
	前年増減率	91.7%	102.7%	88.2%
繰 越 額		119,226,170円	104,062,501円	103,904,092円

● 特別会計

(単位：円)

会 計 名	歳 入 決 算 額		歳 出 決 算 額	翌年度繰越額
		内一般会計からの 繰入金・補助金		
国民健康保険	764,788,112	39,319,000	730,724,545	34,063,567
老人保健	626,147,781	64,717,000	614,874,112	11,273,669
簡易水道事業	120,352,565	17,446,000	115,605,332	4,747,233
下水道事業	245,658,716	99,044,000	239,141,908	6,516,808
介護保険	314,821,530	42,087,000	304,090,278	10,731,252
観光施設事業	(収入) 312,810,401	90,000,000	(支出) 343,458,832	△ 30,648,431
合 計	2,384,579,105	352,613,000	2,347,895,007	67,332,529

※ 観光施設事業特別会計

企業債（借入金）未償還残高 1億5,043万7,560円

一時借入金 6億7,000万円

◆ 監査委員の審査意見

8月23日、監査委員による一般会計及び特別会計の決算審査が行われ、両会計とも予算額、執行命令、収入支出額、出納関係帳票及び関係書類など照査の上、審査し監査を実施した。決算は適確であるか、計数に誤りはないか、予算措置及びその執行は適切か、財政運営は健全か、事業の成果は上がっているかなどについて注意を払った。

その結果、計数は正確であり、決算は正しく、帳簿類は良く整備され、会計経理は適正かつ良好だった。よって、健全な財政運営がなされており、事業の成果も上がっているものと認定した。

◎ 一般会計

歳入決算額36億3,262万9,854円に対し、歳出決算額35億2,872万5,762円であって、1億390万4,092円が翌年度に繰り越された。

財政運営状況だが、村税は、家屋の評価替等による固定資産税の減額があり、収入未済額が前年より増え、しかも高額であった。村税歳入は前年度より調停額で約5億2,313万円の減額だったが、これは不納欠損処分によるものである。村税などの収入未済については、今後も滞納の解消に積極的に取り組み自主財源の確保に努めていただきたい。

厳しい経済情勢の中で、財政の効率的運営に努力している点も評価したい。今後さらに事務事業の見直しや経費節減などを切望する。

村税の減収など厳しい財政状況にもかかわらず、財政の健全な運営がなされ、予算も効率的に執行されている。道路整備など村づくりの基礎となる事業の推進を図るとともに、住民生活の基本となる生活環境整備などの事業が実施されており、村民の福祉向上に貢献したものとみる。全体としてはハード事業を極力抑え、継続事業や住民生活に密着した事業を重点的に行ったようだが、今後も効率的で実効ある予算執行に留意し、健全な財政運営の維持に努めてもらいたい。

◎ 特別会計

・国民健康保険

村が行っている総合検診の受診や健康指導部門との連携を図ることにより、長期安定運営をめざしてもらい、“健康片品”のために尽力してもらいたい。

・老人保険

安定運営を行うために、高齢者の保健管理指導などの推進と充実をのぞむ。

・簡易水道事業

水道料の収納率は85.58%であり前年度より0.68ポイント減少したが、堅実な運営を図るため未収金の解消に一層努力されたい。

・観光施設事業

尾瀬ロッジやオグナほたかは今期も欠損金を計上したが、健全運営の第一歩は誘客を図り収入増につなげるのと諸経費の節減であるので、検討をお願いしたい。そして、それら公営施設については、存続の是非を含めて見直しをお願いしたい。

・下水道事業

健全な運営には、下水道への加入推進を図り、使用料収入の増収が必要だが、加入率は31.7%と依然非常に低い。適切な対応を望む。

・介護保険

介護の予防を推進するとともに、高齢者のニーズに適切な対応ができるよう、介護サービスの充実に努力していただきたい。

◎ 総括

今後、行政と議会には、住民ニーズを把握しての計画的かつ効果的な行財政運営と安定した事業計画の立案に心掛けてもらい、片品村第3次総合計画との整合性を保ちながら、住民福祉の向上や活気ある村づくりのための施策とその実行に期待したい。

平成19年度9月補正予算

単位：千円

会計名	歳入・歳出補正前	補正額	補正後
一般会計	3,355,000	160,975	3,515,975
国民健康保険特別会計	735,839	6,406	742,245
簡易水道事業特別会計	122,480	1,747	124,227
下水道事業特別会計	207,721	37,345	245,066
老人保健特別会計	610,862	25,825	636,687
介護保険特別会計	288,329	22,281	310,610
観光施設事業特別会計(収入)	352,393	46,000	398,393
観光施設事業特別会計(支出)	352,338	45,933	398,271



◆ 各補正予算の詳細

○ 一般会計

歳入の主なものは、地方交付税1億3,227万円、土木費使用料598万4千円、農林水産費県補助金930万8千円、前年度繰越金1,034万5千円です。

歳出の主なものは、総務費1,229万8千円、民生費の介護保険特別会計繰出金1,217万5千円、衛生費の老人保健特別会計繰出金1,386万3千円、農林水産業費1,590万2千円、土木費の下水道特別会計繰出金3,093万円、教育費3,147万6千円、諸支出の公営企業補助金4,600万円です。

○ 国民健康保険特別会計

歳入は、繰越金640万6千円

歳出は、保険給付費440万6千円、基金積立金100万円、予備費100万円

○ 簡易水道事業特別会計

歳入は、基金繰入金△200万円、繰越金374万7千円

歳出は、施設管理費150万円、総務管理費24万7千円

○ 下水道事業特別会計

歳入は、一般会計繰入金3,093万円、繰越金641万5千円

歳出は、公債費3,734万5千円

○ 老人保健特別会計

歳入は、支払基金交付金568万9千円、一般会計繰入金1,386万3千円、繰越金627万3千円

歳出は、医療諸費2,576万7千円

○ 介護保険特別会計

歳入は、一般会計繰入金1,217万5千円、繰越金1,010万6千円

歳出は、保険給付費1,620万円、償還金514万3千円がおもな増額です。

○ 観光施設事業特別会計

収入は、一般会計補助金4,600万円

支出は、尾瀬ロッジ経営費141万3千円、オグナ施設管理費4,452万円

請願陳情審査結果一覧表

請願

受理年月日	件名及び要件	請願者	付託委員会	審議結果
平成19年 8月20日	「憲法九条を守る」決議に関する 請願	憲法改悪反対利根沼田共同 センター 代表 千明 博	総務文教	継続審査

陳情

受理年月日	件名及び要件	陳情者	付託委員会	審議結果
平成19年 8月24日	尾瀬地区携帯電話の基地局設置に ついての陳情	第7区長 松浦文男他 1名	総務文教	採 択

「9月定例会で 決まったこと」

◆条例制定

片品村証人等の実費弁
償に関する条例の制定
(全員賛成)

スノーバル・オグナほ
たかスキー場事業検討委
員会設置条例
(全員賛成)

片品村「尾瀬の日」条例
(全員賛成)

◆条例の一部改正

特別職の職員で非常勤
のもの報酬及び費用弁
償に関する条例
(全員賛成)

片品村村税条例
(全員賛成)

片品村過疎対策のため
の村税(固定資産税)の
課税の特例に関する条例
(全員賛成)

寄居山温泉センター設
置及び管理に関する条例
(全員賛成)

片品村老人憩の家設置
及び管理に関する条例
(全員賛成)

片品村営スノーバル・
オグナほたか施設利用料
徴収条例
(全員賛成)

議会の議員の報酬及び
費用弁償等に関する条例等
(全員賛成)

議会の議員の報酬及び
費用弁償等に関する条例等
(全員賛成)

人 事

◇固定資産評価審査委員
に、千明貞夫氏(再任)



◇教育委員に、井上隆平氏



◇選挙管理委員の方々が
改選されました

平成19年9月30日の選挙
管理委員の任期満了に伴
い、新しく次の方々が大
選されました。

○選挙管理委員

糟淵 1089番地

千明 貞夫氏

東小川 1315番地

星野 道夫氏

土出 2298番地

吉野 弘一氏

鎌田 4116番地1

入 澤 悟氏

(10月1日の委員会におい
て、委員の互選により委
員長に千明貞夫氏、同職
務代理者に吉野弘一氏が
就任しました。)

○補 充 員

菅沼 158番地

大竹 敏彦氏

花咲 375番地

星野 堅司氏

越本 1871番地1

入 澤 博文氏

戸倉 594番地

萩原 照夫氏

(委員が欠けた場合の補充
順序は、この登載順です。)

こんな質疑が
ありました

☆尾瀬の日条例制定

(大竹文夫議員)

当村は尾瀬地区、丸沼
地区、武尊地区という3
つの谷からなりたつ
ている訳です。この条例
制定にあたり、村を尾瀬
一色で染めるかの様な誤
解を招きはしないか。ま
た、尾瀬の貴重な自然を
守り育てる、という点で
近隣市町村との連携を取
ることも必要と思えるが、
村長の考えをお聞きた
い。

■(村長)

片品村が尾瀬一色とい
うことでなく、花咲地区、
丸沼地区にも恵まれた自
然を持ち、また、誇りを
もっている。尾瀬の日を
制定するにあたり、檜枝
岐村、片品村も尾瀬サミ

ットが開催される中で宣
言をした。その後サミツ
トの理事会において、尾
瀬保護財団もその様な取
り扱いをするとの事です。
今後、尾瀬が国立公園と
して認められた訳ですか
ら、尾瀬を全面に出し、
尾瀬・武尊・丸沼地区の
発展に繋げていく考えで
います。

☆監査委員報告について

(大竹文夫議員)

監査方法について現金、
預貯金類の監査は、どの
様に行っているか。

■(代表監査委員)

預金通帳との付け合わ
せは、例月出納検査で毎
月行っています。

■(戸丸廣安議員)

村営施設の存続等見直
し、検討をとあるが、具
体的な所見をお聞かせ願
いたい。

■(代表監査委員)

オグナほたかの委員会
の設置がされ、検討され
ますが、尾瀬ロッジ等の
施設を含め経営存続は、
財政負担の増大が懸念さ
れ、村当局、委員等の協
議を早急に行い、方向付
け等の結論をお願いした
い。一般会計等の繰り入
れから毎年支出の状態は、
健全経営とはいえないと
の考えだ。

【問】(飯塚美明議員)

村税の繰り入れについて、前年度より調停額で5億円の減額となっているが、どの様なことか。

【答】(代表監査委員)

調停額の5億2,313万円の減額は、不納欠損処分です。主にサエラ関係の欠損金である。

【討論】

◎平成18年度一般会計決算の認定について

反対討論(大竹文夫議員)

利根信に相殺されたという村長の答弁が、非常に問題があるという不満であり、問題責任の所在を明らかにしないまま、認定することに反対する。

賛成討論(星 長命議員)

前の議会から引き続き審議をし認定されている。後日再検討するにしても、今日のところは賛成をしたい。

賛成討論(星野千里議員)

未納税の5億円の不納欠損金の処理をすることにより、村税収納率が42%から90%以上になったこと、利根信との和解について5,800万円は、村財政のなかで大金である。

しかし、こういう問題を解決していくことが大切であり、オグナスキー場も検討委員会が設置され、こうした前向きな取組みに対しても決算を認定したい。

◎尾瀬地区携帯電話の基地局設置についての陳情賛成討論(大竹文夫議員)

反対意見が様々なかたちで述べられている中、そのような方との合意形成に努力することを強調し、賛成する。

一般質問

議員4人村政を問う

◆国道401号線の

の早期開通を



星野 育雄議員



国道401号線(旧県道沼田・田島線)

【問】会津街道は、関東と東北を結ぶ重要街道として古来より道路として利用されてきました。国道401号線(旧県道沼田・田島線)の車道化は、67年前に尾瀬の公園利用計画が策定されて以来建設事業が進められてきました。自然の保護と利用のバランスをどうとるか長年議論されてきましたが、両者が競合する場合の判断基準

は、どちらが公共の利益になるかであると思います。片品のような大自然の中に生活する人間にとって、貴重な自然は守らなければならないが、生きるために必要な道路整備は、優先される事項であると思います。

片品の主要産業である観光は、長引く景気の低迷と共に来客数が激減し、灯りが見えてきません。観光産業発展のためには、片品が周囲の観光地と車道でつながっていることが重要であり、国道401号線の未開通部分の早期開通は、必ず実現しなければならぬ最重要課題であると思いますが、どうお考えですか。

【答】全線開通となれば、大きな経済効果が期待されます。

【問】建設路線は、どこが適当だと考えていますか。

【答】以前はいろいろな案がありました。今だに路線が確定していません。

【問】檜枝岐村との協力体制をどのように構築したらよいと思いますか。

【答】両村議会は議員交流を毎年実施し、行政面でも、尾瀬国立公園を通して良好な関係にある。

【問】事業化のため群馬県、国にどのように働きかけていけたら良いと思いますか。

【答】国道401号線改良整備促進期成同盟会で毎年、地元選出の国会議員、国土交通省、財務省、国土交通省関東地方整備局、群馬県に要望活動を実施してきています。

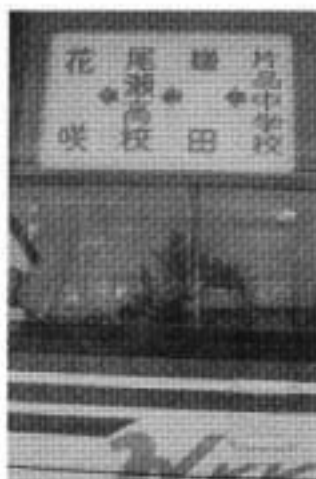
【問】椎坂バイパスと国道401号線の早期開通こそ、片品村が生き残る大動脈になると思う。檜枝岐村との交流会において、片品村の奥鬼怒林道と檜枝岐村の実川林道をトンネルで結んだ路線で車道を建設する路線案で群馬県、福島県、国に建設するよう陳情等の具体的な行動を起こそうという協議をしてきました。今年の交流会で路線案、協力関係を具体的に話し合い、開通へ向けて前進をはかっているかが。

【答】椎坂トンネルはどうしても作らなければならない。国道401号線の路線確定について檜枝岐村と話し合っていて、県、国に要望していく。

◆通学費補助と バス運行費補助 と村営ディマン ドバス運行



戸丸 廣安議員



〈ダイヤモンドバスとは〉
路線を限定しない自由乗降
乗り合いバス

鎌田・花咲線の1区上郷迂回案を採用するつもりはないのか？

答(村長)

バス路線の廃止に伴う廃止路線代替バスの運行について、関越交通株式会社と契約しており、運行に係る経費に経常収入が満たない額については補助金を交付しています。

運行区間・運転回数は、片品中学校・鎌田・花咲間12・3回と、鎌田・花咲間11・3回5回の1日8回の運転です。平成18年度の1日平均乗車人員は10・1人です。その補助金は、平成17年度が8,123,000円、18年度が8,384,388円です。

平成17年度は、県補助金の市町村乗合バス制度により、727,000円の補助金があったが、平成18年度は収支率20%未満が2年続き、交付が停止された。利用率の向上の具体策ですが、平成14年まで1万人を超えていたものの、平成17年度・18年度には3,000人台まで減少した。現状は、主たる利用者の児童生徒の減少に加え、多くの通学保護者が自家用車で送迎しており、利用者が少なくなっています。

同 小学校児童・中学校生徒への通学費補助の現状は？的確に配分されているか？ 必要不可欠なものか？ 必ず定期券・回数券を購入することなど交通インフラとしての運行の確保と村の経費削減を考えないか？

答(村長)

小・中学校に通学する児童生徒のうち、一定の距離以上から通学する者(児童で2km以上、生徒で3km以上)が対象。小・中学校の総数では287人が該当。全児童生徒数の51%に対してその通学に要する経費の一部を補助することで、保護者負担の軽減を図っています。教育環境の整備という観点からも、重要な施策と考えます。補助金額については通学距離によって定めたもので、この制度は適正であり、公平性を満たしていると考えています。

問 バスへ社への運行費補助金と関連経費は？ 補助金を払っての委託バス運行だが、利用者は少なくして利用率は惨憺たるもの。その利用率向上の具体策は？

利用向上のため、花咲線を1区の上郷を通すという案ですが、バス路線として道路の現状や費用対効果を含め、利用希望者がどの程度あるのか、迂回した場合、通らなくなる立派な鎌田区間で現在の利用者があがるのか、ある場合の対応ができるかどうか、運行距離が長くなることで今までの契約金額が上がるのかどうか、全体での委託補助金はどうなるのか等の課題が考えられるので、戸丸議員の案の採用につきましても、関係する皆さんの意見を聞き、検討する必要があります。花咲線は、村が、費用の負担をするだけでなく、バスそのものを県と一緒に買って関越交通に運転・管理をお願いしています。この問題は教育委員会、むらづくり観光課、保健福祉課の3つが担当しているので、それらの課が一丸となって新しい方向性を考えていく必要があると考えます。ここで方向性を出すということはできませんが、前向きに検討してゆくということで御理解をお願いします。

問 車のない人や高齢者などへの融通と即応の利く(かつまた村民の福祉向上につながる)ダイヤモンドバス運行サービスを村内で始める計画はないのか？

答(村長)

そうした計画ですが、交通弱者対策として村では、敬老バスカード(65歳以上で路線バスの利用者への割引乗車券、4,350円分利用できるカードを村が3,000円で購入し、2,000円で販売。平成18年度で1,493枚、195名が利用した)・通院・買物等対応の福祉有償運送(片品村社会福祉協議会が23名、桜花苑が15名、なでしこの会が10名担当中)・タクシール金の半額補助(タクシー以外の交通機関を利用することが困難で、所得税が非課税の世帯で65歳以上の方が対象。年間48回、一月平均2往復の通院に適用。7名が利用中)を行っています。経費のかかるバス運行よりは、こうした事業の充実で、交通弱者対策を推進していく考えです。

◆尾瀬国立公園 記念事業は



大竹 文夫議員



尾瀬国立公園記念事業について、村長にお伺いしたいと思ひます。

1点目として、尾瀬が単独の国立公園になるということが、私たち片品村、片品村民にとってどんな意味と影響があるのかということについて、お伺いしたいと思ひます。

尾瀬国立公園を守り育てるのにふさわしい村となるかたちとは一体何なのか、全国に発信する重要な転機であるというふうに考えています。

2点目ですが、現在、尾瀬国立公園記念事業実行委員会が設置され、第1回の会議が開かれたというふうにお聞きしております。

この実行委員会が、村民の総意を結集するかたちで作られているのかについて、私からすると若干の危惧があるということですが、

その点について、村長のお考えをお聞きしたいというところが2点目です。

3点目に、どのような記念事業を予定しているのかということについてです。全員協議会で配られたものの中に7つほど載っていますが、尾瀬そのものを取り上げて片品の村民の中に尾瀬を根付かせていくか、尾瀬そのものをどうみんなに理解していただくかが、記念事業の一つに柱として設定されるべきではないか、その点について、村長のお考えをお聞きしたいというところです。

4点目は、各記念事業の内容・性格についてです。片品村が補助金を出すについては、こういうイベント云々については、しっかりとした検証作業というものを、すべきであると思ひますが、村長のお考えはいかがでしょうか。

〔村長〕

尾瀬が、単独の国立公園になることが片品村にとつてどんな影響があるのかですが、美しい景観とともに貴重な自然の宝である尾瀬は、幾多の歴史を超え、多くの先人達の努力により守られてきました。

尾瀬が単独の国立公園になったことは、今後、地図や観光誌、ガイドブックなどに「尾瀬」の名前が記され、明確になり、その位置がはつきりと分かり易くなり

りますので、「尾瀬」と共に「片品村」の知名度も大幅にあがるものと期待しております。

これを機に、尾瀬の郷「片品村」を全面に出し、日本百名山の白根山や武尊山の山岳景観地や粉雪のスキエリア、9つの温泉等、それぞれのうっとりゆく四季を楽しめる片品村を全国へ情報発信して行きたいと思ひます。

この度の誕生は、尾瀬の希少価値が改めて認められたもので、片品村の宝として尾瀬の自然を守りながら村の発展につなげたいと考えています。

記念事業実行委員会の構成と役割については、協議会を始め、経済3団体、区長、民宿旅館連合会、婦人会、学識経験者からと村からの委員で構成し、その役割は記念事業の選定と財源管理と事業の指導であります。

次に、記念事業の予定と各記念事業の内容、性格についてですが、一般公募をし、応募のあった中から実行委員会で選定していただきました。

予定しております事業は、演劇スクール、尾瀬の郷オゾンシアター、単独化記念特別広告、尾瀬フェスティバルの開催、映画祭の開催、尾瀬ブランドの認定、尾瀬文学賞の創設、音楽祭の開催等でございます。

最後に、村としての予算とその使い方についてでございますが、予算につきましては村からの委託料でございます。その主な財源は、家くじの助成金や寄付金であります。

実行委員会へ支出した経費は、応募者から上がったきた計画書に基づき、実行委員会で認められたものに対して交付するものです。

なお、詳細につきましては、去る8月29日の全員協議会におきまして、事業名、事業内容、事業費、事業主体、実施年度、実行委員会収支予算書、実行委員会名簿を一覧表としてお配りし、説明報告をしたとおりであります。



◆オグナほかかスキー場の誘客努力は



星野 侃三議員



オグナほかかスキー場

オグナほかかスキー場の誘客努力は？
 研鑽と企業努力を望みますと監査委員の意見がありますが、今日までどのような誘客のための努力をしてきたのか。

〔村長〕

片品村観光協会やスキー場連絡協議会主催などの観光イベントに積極的に参加。平成18年度につきましては、関東地区1都6県の17箇所において、延べ36日間の営業活動を実施。雑誌などは宣伝効果を考慮しながら10誌へ。神奈川県スキー指導委員会のホームページ上へバナー広告を掲載し、電波広告としまして、FM群馬では「スキーインフォメーション」、1月に「年賀メッセージ」の番組の中でオグナほかかの宣伝、コンビニバック券の発売や、武尊牧場スキー場と合同で、旅行者主催の東京からの「格安日帰りスキーツアー」の企画。上尾市、蕨市、練馬区そういったところで機会があつて片品村のピーアールをするわけですが、そこでオグナほかかのピーアールはしません、そういったかたちでオグナ白体を都会でピーアールしたことはありません。

〔臨時会〕

10月10日 戸倉地区の吊橋架設工事契約が議決されました

＊契約の目的

まちづくり交付金事業
吊橋架設工事

＊契約の方法

指名競争入札による契約

＊契約金額

1億1,865万円

＊契約の相手方

片品村大字須賀川7番地1

角田建設工業株式会社
代表取締役 角田とく

檜枝岐村議会との交流会開催

9月26日(水) 檜枝岐村にて

国道401号線改良整備促進について協議され、片品村と檜枝岐村の間の車道未開通区間の路線案をA・B・C・Dの4ルートの中からCルートで合意しました。Cルートは、片品村の奥鬼怒林道と檜枝岐村の実川林道を

トンネル等で結ぶ路線です。両村は今後協力して、このCルート案で車道を開通させるよう群馬県、福島県、国に要望活動を展開していくことになりました。また、尾瀬の携帯基地局設置についても両村足並みを揃えて関係機関に働きかけをしていくことで合意をした。

奥鬼怒林道と檜枝岐村の実川林道をトンネル等で結ぶ路線



● 編集 後 記 ●

実りの秋を迎え紅葉の季節となりました。みなさまにおかれましては、益々ご活躍のことと存じます。

7月の群馬県知事選挙では、県政刷新を訴えた自民党公認の大沢正明氏が当選し、参議院選挙では民主党が大勝して参議院第1党となり、安倍晋三首相が辞任し、群馬県で4人目の首相に福田康夫内閣総理大臣が誕生しました。

福田首相は、所信表明演説で地方再生への道筋として、「自立と共生を基本に、都市も地方も、自助努力を基本としながらも、お互いに尊重し合い、支え、助け合うことが必要である」と述べております。

さて、9月定例会では尾瀬地区携帯電話の基地局設置についての陳情採択、尾瀬の日条例制定、スノーバル・オグナほかかスキー場事業検討委員会設置条例、平成18年度一般会計及び特別会計決算認定、平成19年度補正予算認定、選挙管理委員の改選、4議員の一般質問などが行われました。

片品村全体では、基金(貯金)が約12億円、村債(借入金)が約51億円あります。本村の緊急課題としては、村営赤字観光事業の方向付けと国道120号線椎坂トンネルの早期着工だと思えます。

この村営赤字観光事業の問題については、オグナほかかスキー場検討委員会が設置され、そこで協議することになりました。また、椎坂トンネル早期着工については、今、片品村民が丸一となって県・国にお願いする必要があると思えます。

今後とも村民のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

議会活動も意欲的に行われておりますので、是非お読みいただき、よりよい村づくりのための建設的意見を議会におよせください。村民のみなさまのご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。

〔星野育雄記〕

編集委員長 星野育雄
発行 片品村議会
発行責任者 萩原日郎
編集委員 ○星野育雄
○萩原一志
入澤登喜夫
星野侃三
笠原耕美
飯塚丸廣
印刷所 笠原印刷有限公司

お知らせ ◎ 次回定例会 12月7日(金)～14日(金)の予定です。
一般質問は14日の予定です。みなさんの傍聴お待ちしております
【問い合わせ TEL 58-2119】